

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年7月17日

【評価実施概要】

| | |
|-------|---|
| 事業所番号 | 3470203583 |
| 法人名 | 株式会社エポカケアサービス |
| 事業所名 | グループホーム 己斐・みどりの家 |
| 所在地 | 〒733-0815 広島市西区己斐上4丁目29-16 (電話) 082-275-0010 |
| 評価機関名 | 社団法人広島県シルバーサービス振興会 |
| 所在地 | 広島市南区1丁目6番29号 |
| 訪問調査日 | 平成21年7月15日 |

【情報提供票より】(21年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|------------------|
| 開設年月日 | 平成 14 年 11 月 1 日 |
| ユニット数 | 2 ユニット |
| 職員数 | 20 人 |
| 利用定員計 | 16 人 |
| 常勤 | 8 人 |
| 非常勤 | 12 人 |
| 常勤換算 | 10.0 |

(2) 建物概要

| | |
|------|--------------------|
| 建物構造 | 鉄骨 コンクリート 造り |
| | 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|-----------------|----------------|------------|----------|-------|
| 家賃(平均月額) | 35,000~45,000円 | その他の経費(月額) | 23,000 円 | |
| 敷金 | 有(150,000円) | | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有() 円 | 有りの場合償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 500 円 | 昼食 | 500 円 |
| | 夕食 | 500 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | 1,500 円 | | |

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|-------|
| 利用者人数 | 16 名 | 男性 | 0 名 | 女性 | 16 名 |
| 要介護1 | 4 名 | 要介護2 | 6 名 | | |
| 要介護3 | 2 名 | 要介護4 | 2 名 | | |
| 要介護5 | 2 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 87.2 歳 | 最低 | 63 歳 | 最高 | 103 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------------|
| 協力医療機関名 | 医療法人社団光仁会梶川病院・小川歯科医院・春野歯科医院 |
|---------|-----------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは広島市西部地区を中心にグループホーム・ディサービス・小規模多機能ホームを運営するグループ企業のひとつである。広島市西区の郊外に位置し、約7年前に元社員寮を改装して開設され、エレベーターも設置されている。『ゆっくり いっしょに たのしく』の施設理念のもとで、利用者のペースに合わせてゆったりとした、きめ細やかな介護が行われている。地域に開かれたホームを目指して行われる運営推進会議、家族の意見・意向を反映させる家族会は定期的・効果的に開催されており、そこの討議はホーム運営に活かされている。また、本社企画による年間研修計画も整備され、職員のレベルアップが図られており、サービスレベルの更なる向上が期待される。

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では「地域とのつきあい」の項目で、地元の人々と交流を深める手段として「施設内に介護の専門書を備えミニ図書館を作り、地域の人々に開放したらどうか」の指摘があった。その提案に対し、一度は試みて実施したがそれによる効果は見られなかったために、交流を深めることを目標に「地域の人々に積極的に挨拶をする」をスタッフ全員で徹底・実施し、そのことが日常に行えるようになった。地域行事等にも参加し、交流は確実に深まっている。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者及び1F・2Fユニットの各担当職員が意見を持ち寄り、話し合っ自己評価を作成している。明らかになった課題は、社員ミーティングの場で、あるいは本社の担当職員と話し合いの場を持ち、改善策を検討・実施している。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2ヶ月に一度、定期的に行われており、外部より地域包括センター・民生委員を始め町内会長・中学校長・医師等、又ホーム側からも数名の職員・本社責任者と多くの参加を得て開催されている。内容もホームからの活動報告だけに留まらず、防災面からの施設の問題・町内行事の取り組み・ホームでの職場体験・インフルエンザの対策・虐待について等、参加者の方々が、それぞれの立場に立っての発言や助言を得られており、有効な活動となっている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関に苦情箱が設置してあり、重要事項説明書には苦情受付窓口としてホーム窓口とあわせ公的機関の窓口も併記してあり、苦情や意見が申し出易い環境は整えられている。特に運営推進会議に家族の参加を呼びかけ、積極的な発言を促し、率直な意見・意向の把握に努めていることは評価できる。また、年2回開催される家族会には毎回多数の家族が参加し、ホームの現状を報告し家族からの要望・意見を汲み取るうとする努力は評価される。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議に町内会長を始め、ご近所に住む民生委員・医師がほぼ毎回出席され、活発な意見交換がされている。また、町内会に加入し、町内行事(夏祭り・地域の避難訓練等)には積極的に参加し、逆にホーム開催の「みどりの家」にも地域の多くの方々が立ち寄っている。「みどりの家の重点的取り組み事項」の一つとして「地域との連携」があげられており、日々の挨拶徹底を始め、地域との連携には努力が払われ、実践されている。 |

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|---|-----|---|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 法人の経営理念「人を敬い・人を愛する」の下に事業所の理念「ゆっくり・一緒に・楽しく」に基づき、一緒に料理をしたり、洗たくや掃除、買物など日常生活を楽しむ支援を行っている。 | | |
| | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 職員全員がいつでも理念を見れるように、各ユニットに理念を掲示してある。全職員が参加する本社の研修会では、理念について振り返りを行っている。入居者の介護で困った時に、管理者と職員は、理念を思い起こし理念に沿った対応を心がけている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会に加入しており、年1回の祭りには準備段階から職員が手伝いに参加するなど町内会活動に積極的に参加している。施設を開放し、家族・近隣の住民を招待して行われる「みどり祭り」には、多くの住民が参加している。近隣の中学生の生徒の職場体験研修にも、積極的に協力している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 自己評価の作成は、職員の担当者を決めて、全職員の話し合いで作成している。外部評価の報告書は、家族が見ることができるよう玄関に掲示される。また、職員にはミーティングの際に報告されている。なお、外部評価の改善点は、社員ミーティングで本社社員とともに話し合いが行われ、改善につなげている。 | | |
| | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進委員会には、民生委員などの地域住民・包括支援センター・協力医療機関の医師・施設の職員・本社の職員などいろいろの立場の人が参加し、毎回活発な意見交換がなされている。この会での話し合いで、災害時に近隣住民との協力が得られるなど有意義な会に発展しつつある。 | | 運営推進委員会の様子は、毎月発行される「己斐・みどりの家通信」に掲載されるが、詳細については家族に報告されていない。今後は、運営推進委員会の議事録を家族に報告し、情報を共有していただきたい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|-----|----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 介護保険に関する問い合わせや、入居者の相談について介護保険課と密接な連絡を取り合っている。その際には、ホームの状況を知らせている。また、運営推進委員会への市職員の参加を要請している。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月、「己斐・みどりの家通信」とホームでの様子を、記載した手紙を家族に送付している。預かり金の金銭報告は毎月、領収書を添付し、家族に送付し確認してもらっている。往診以外の受診の報告は、毎回家族に報告している。家族には、季節の行事について報告し、参加を呼びかけている。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年に2回開催される家族会では、家族からの様々な意見に答え、改善すべき点は対応策が考えられている。また、玄関には意見箱を設置し家族の意見を聞けるようにしている。家族の来所時には、家族からの意見・要望を聞くように努力している。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | ホーム内での1F・2F職員の移動は定期的に行われているが、入居者と馴染みの関係ができていたので、入居者に戸惑いはない。また、新入社員が来たらスタッフの配置人員を増やし対応している。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人として、職員を育てることに熱心である。年に数回行われる外部講師招へいの講演会は、職員が全員参加できるように複数回開催され、非常勤の職員を含め全員が受講する。法人主催で、月に2回レベルアップ研修が行われる。また、外部研修には、常勤非常勤に関係なく希望者が参加できる仕組みが整えられている。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 広島市のグループホームの職員が参加する交流会「グループホーム協会」「ぼちぼちネット」に参加し、交流を深めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|---|--|-----|----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前には、家族から状況を詳しく聞くようにしている。正式契約の前に、体験入居をしていただき職員と馴染みの関係を作り入居していただくようにしている。 | | |
| 13 | 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は入居者と話すことで、人生の先輩として学ぶことは多く、今まで知らなかったいろいろな発見がある。入居者が精神的に安心できるように、傍らに座り、常に腕を取りスキンシップをするように職員を指導している。 | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ケアプラン変更時には、毎回アセスメントを行い本人の意向を確認している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | ケアプランの作成・評価・見直しは、職員全員が関わり話し合いにより、ケアプランを作成している。 | | |
| 16 | 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | ケアプランの具体的な介護計画の項目については、その人に合ったケアができているか・十分な介護ができているか・介護計画の変更が必要であるかを全職員で検証する機会を設けている。その上で、必要であれば、介護計画の見直しを行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------|----|--|---|-----|--|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 通院や役所への手続きなどは、必要であれば支援をし柔軟な対応をしている。同一法人のグループホームを訪問したり、招待するなどの交流を行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 週に1回内科医と歯科医の往診があり、月に1回の眼科医の往診がある。医療対応が必要な時には、ホームの看護師と連絡をとり、かかりつけ医に連絡し迅速に対応している。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した場合や、終末期のあり方について必要が生じた場合には、家族の意向を確認し話し合いを行っている。 | | 今後は看取り行うことをホームとして前向きに検討している。その為に他の施設の状況を見学したり、研修に参加して体制づくりを行えるように検討していただきたい。 |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 管理者は言葉かけには十分気をつけるように、人生の先輩としてプライバシーを保つケアを行うよう指導している。外部調査の調査員に対しても、記録の開示を同意した入居者についてのみ開示し、個人情報の取り扱いに十分に配慮している。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員は入居者のペースに合わせて、利用者の食事や入浴の時間帯をずらすこともあり、ゆっくり・いっしょに楽しくをモットーに支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|--|-----|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事中はTVを消し、食事に集中し楽しむようにしている。職員が入居者の食事の希望を聞き、献立の参考とし食事を作っている。時には出前を取るなどして、食事に変化をつけている。食事の買い物には、ほぼ毎日入居者と一緒に、買い物にでかける。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 原則は2日に1回の入浴であるが、本人の希望や体調に合わせて、時間や回数は柔軟に対応している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 入居者ができることに応じて、食事の後片付けや洗濯物たたみ・掃除など役割を分担している。ボランティアによるレクリエーションの支援が行われている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 食事の買い物は、ほぼ毎日一緒にでかけている。少人数のグループに分かれて、買い物や気軽に行けるレストランでの外食などを日常的に行っている。春には、近所の公園に家族も参加して花見に出かける。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかけないケアが大事であることは十分に承知しているが、地理的にバス通りが近く、坂道に面して危険であるので、現在は入口を施錠している。しかし、常にオープンでありたいと考えており、施錠しないような設備の検討を行っている。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 運営推進委員会での、民生委員や地域住民の声掛けにより、ホームの夜間緊急時には近隣住民の方に応援してもらうような協力体制ができています。また、災害時には近隣住民の避難所としてホームを使用してもらうよう申し出ている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|--|---|-----|----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分補給は、脱水症状を起こさないように十分に注意している。食事を食べられない人には、食事の形態や摂取方法を研究し対応している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングの壁には、入居者と一緒に作成した季節の飾り物を展示して、居心地良く過ごせるように工夫している。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの家具やお気に入りのお人形などを持ってきてもらい、居心地良く生活できるようにしている。 | | |

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム己斐・みどりの家

評価年月日 2009年 6月 10日

記入年月日 2009年 6月 15日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 管理者 奥田 和代 介護従業者 西谷 真

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|----|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|
|----|----|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|

理念の基づく運営

1 理念の共有

| | | | | |
|---|---|--|--|--|
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。 | 開かれたホームである事、地域の方達の受け入れ等、気軽に出来るホームであるよう職員全員同じ思いを共有している。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | 「ゆっくり いっしょに たのしく」の理念を掲げ日々の生活の中実践している。 | | |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。 | 地域との関わり等、毎月1度のみどりの家通信でお知らせしたり、家族会でも報告しています。 | | |

2 地域との支えあい

| | | | | |
|---|---|---|--|--|
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。 | ご近所の方との立ち話や、時にはホームに親御さんの相談に来られたりする事も有ります。 ご近所の方への挨拶は職員一同当たり前になり又みどり祭りにもご近所の方が沢山足を運んで下さいます。 | | |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 | 町内会にも入り、地域の避難訓練や行事にも積極的に参加し、近所の魚屋さんとも繋がりを持つ為週に2回魚の日を設けている。 地域の方による絵手紙や折り紙教室も定期で行われています。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------|---|--|-------------------|---|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。 | 運営推進会議等で、地域の高齢者の方が気軽に立ち寄れる家でありたい事など、伝えている。 | | みどりの家をもっと地域の方へ情報発信するにはどうしたらよいか、模索して生きたい。地域の職員も多くいる為まずはそこからやかかりつけ医からの発信は続けている。 |
| 3 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 職員全員が自己評価を作成取り組んでいる。外部評価や自己評価で明らかになった課題を分析して改善に努めている。 | | |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 定期的開催されており、報告や話し合いを行い、サービスの質の向上に努めている。又改善点や意見を大事に考え運営に活かしている。 | | |
| 9 | 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 介護保険更新の手続きや、各担当の方にも不明な点は質問し、その際ホームの現状も報告している。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。 | 研修に参加したり、資料を調べたり、知識の向上に努めている。 | | |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 研修に参加し、報告書を元に勉強会を開催している。又精神的虐待、言葉の虐待にならない様充分なコミュニケーションを取るようになっている。 | | 身体拘束についての意識をもっと深める為近日中に勉強会の開催を企画している。 |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|---|--|--------------------|----------------------------------|
| 4 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約の際には担当者が十分な時間を取り 重要事項説明書を基に説明を行っている。 | | |
| 13 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。 | 机上に対する対応内容、手順のマニュアルを掲示している。 必要時には話し合いの場を設けている。 又入居者さんが気軽に不満や苦情が言える関係作りに努めている。 | | |
| 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。 | 毎月 1 回請求書と一緒に今月のご様子、通信、金銭出納帳を送付し、行事参加促しの連絡も随時行っている。 | | |
| 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 重要事項説明書に苦情対応窓口を記してある。 また、苦情処理体制をホームに掲示し、玄関ホールに苦情箱を設置してある。 苦情等ある場合には運営推進会議や家族会で話しあえる様な関係作りが出来ている。 | | |
| 16 | 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 日々の業務の中や朝の申し送りや月に 1 度の全体ミーティング時に話し合っている。 又個人面談も行いそれぞれの思いや意見に傾聴するよう努力しています。 | | |
| 17 | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | 休み希望ノートもあり、地域の職員も多く、急な休みにも対応してくれる職員が多い。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|---|---|-----------------------|---------------------------------|
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> | 退職者が少なく、馴染みの関係が出来ている。 | | |
| 5 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | <p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> | 研修や勉強会を開催したり、外部研修にも進んで参加できる様常に促しが出来ている。 | | |
| 20 | <p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> | ぼちぼちこうネットやGH交流会の参加や、運営推進会議にも他ホームの見学がある。 | | |
| 21 | <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> | 親睦会や忘年会等定期で行っている。 | | |
| 22 | <p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p> | 努力している事や、良い所を見つけ口に出している。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | <p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p> | 日々の生活の中思いや情報を汲み取りながらケアプラン、アセスメントを基に日々振り返りをして、取り組んでいる。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------|--|--|-------------------|---------------------------------|
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 | 家族とのコミュニケーションを大事にし、その中で、家族の思いを汲み取れるよう、心がけている。 | | |
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 他のサービス等、知りうるサービスの情報の提供につとめている。 | | |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | 体験入居利用も受け入れている。 | | |
| 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者一人一人の気持ちに寄り添い、共感しながら過ごしている。 本人さんから学ぶ事も多々あり、支え合う関係を築いている。 | | |
| 28 | 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | 家族との関係を密にする事で、本人さんや家族支援に繋がっていると思う。 | | |
| 29 | 本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。 | 少しの変化でもご家族へ随時連絡している。 行事への参加促しも連絡している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|--|---|-----------------------|---------------------------------|
| 30 | <p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p> | <p>電話や手紙のやりとりの支援をおこなっている。</p> | | |
| 31 | <p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p> | <p>職員が間に入りコミュニケーションが取れるようにしたり、孤立した時には職員が寄り添える環境をつくっている。</p> | | |
| 32 | <p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p> | <p>新年の挨拶状程度の関わりしか出来ていない。</p> | | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div> | | | | |
| <p>1 一人ひとりの把握</p> | | | | |
| 33 | <p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p> | <p>日常生活の中で、おもいや希望など聞き把握に努めている。</p> | | |
| 34 | <p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p> | <p>入居前の生活歴の把握に努め、日々の生活の中での情報に耳を傾け職員での共有に努めている。</p> | | |
| 35 | <p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p> | <p>日々の生活の中、心身ともに安定して過ごして頂ける様心がけている。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 毎日ケアプランに添った振り返りをしながら日々の変化や思いを反映している。 | | |
| 37 | 状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 職員全員で作成に携わり関わりをもっている。 | | |
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 日々の様子を生活日誌に記入、ケアプランの振り返りを日々行っている。 | | |
| 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | 個々の状況を踏まえ柔軟に対応しています。 | | |
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 徘徊ネットワークへの登録、消防訓練、町内会長、民生委員さん達と協力しあっている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|--|-------------------|--|
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 入居後はケアマネージャーと接点はありません。 | | |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | 運営推進会議等で意見交換や助言、情報を頂いています。 | | 地域包括の方からもっと意見や情報を頂けるよう密な関係作りが出来たらとおもいます。 |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。 | 常に連絡をとりながら気軽に相談出来る関係ができています。 | | |
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | 専門医の研修を開き、職員の勉強会の機会にしています。 | | |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | 看護師さんとは連携が取れており、常に相談が出来ている。 職員にも看護師がおり、健康管理の支援が出来ている。 | | |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | 状態把握できる様に、病院にはなるべく足を運び、情報共有に努めている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|---|-----------------------|---|
| 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p> | <p>家族、かかりつけ医、職員でしっかり話し合い方針を決めて行きたい。</p> | | <p>家族・ホーム相方の考えの中、その都度話し合いをかさねて、悔いの残らない方向を決めて行きたいとおもいます。</p> |
| 48 | <p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> | <p>かかりつけ医や看護師さんとの連携協力、又家族の理解協力が不可欠、その中でその人なりの週末期が迎えられるよう、しっかりとした体制を作っていく。</p> | | <p>いろいろなケースに対応出来るよう、勉強して行きたい。</p> |
| 49 | <p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p> | <p>使いなれた家具等、住み慣れた部屋に近づく様、以前の生活を受け入れながら見守っていけるよう、情報共有に努めている。</p> | | |
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p> | | | | |
| 50 | <p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> | <p>声掛けの方法やタイミングなど、目立たず、さりげない言葉かけや対応をしている。また、記録類はスタッフ室で管理しており、個人情報の取り扱いには十分な配慮を心がけている。</p> | | |
| 51 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | <p>本人の希望や意志を知るためにしっかりと話を聞き、納得していただけるよう説明、話をしている。</p> | | |
| 52 | <p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | <p>日々の体調を考慮して、外食、買物、散歩なども本人の意志を聞いて柔軟に対応している。日頃からよく話を聞き、入浴や食事等、入居者のペースに合わせて支援している。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|-------------------|---------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | |
| 53 | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。 | 日々の着替えなどご本人に尋ねて着替えを決めている。また、2ヶ月に1度の散髪ボランティアの他、職員による散髪も必要に応じて行っている。 | | |
| 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 入居者さんは職員と共に個々の能力に応じて、料理の下ごしらえ、盛り付け、配膳、後片付けを行っている。また、一緒に食事をすることで入居者さんの好み、様子の把握に努めている。 | | |
| 55 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。 | 入居者さんの好みに合わせた食事や外食なども利用して支援している。また、一緒に食事をすることで、入居者さんの好みの把握に努めている。 | | |
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。 | 排泄パターンを把握して、その方に合った方法での支援をしている。その日の体調もみながら適した方法で行っている。 | | |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | 基本は1日おきの入浴としているが、希望や体調を聞いて柔軟に対応している。 | | |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。 | 1日の生活リズムを把握して、入居者さんの意志を尊重し、休める環境にしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|---|-----------------------|---------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | 入居者さん一人ひとりの能力や好きなことで役割を見出せるよう、できること、したいことの把握に努めている。また、その日の気分や体調によって柔軟に対応している。 | | |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 自己管理やホームでの管理など一人ひとりに合った方法で金銭管理を行っている。また、希望に応じて、いつでも使えるよう支援している。 | | |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | ホームの庭の掃除や水遣りなどを兼ねての散歩など、気軽に外に出られるよう支援している。 | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。 | 普段の生活や話の中で一人ひとりの希望や好みにあった場所を考え、外出、外食の機会を積極的に設けている。 | | |
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | ご本人の希望があれば電話をしたり、手紙を書いたりして、一番安心していただけるように支援している。 | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | いつでも気軽に来ていただけるように明るい雰囲気、気持ちよく過ごせるようにしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束しないように、十分な見守りや危険な物の置き場所など工夫して考え、取り組んでいる。 | | |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | すぐ外は車の通りがあり、道も凹凸があり危険なので、玄関は鍵をかけている。 | | |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 職員同士、声をかけあって安全に過ごせるよう取り組んでいる。 | | |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | 一人ひとりの状態をよく把握して、何が危険なのかを考え、事前に危険を防ぐ取り組みをしている。 | | |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 徘徊ネットワークの申請や救命救急の訓練をしている。 | | 冷静かつ迅速に動けるように、緊急時の対応方法のマニュアル化 |
| 70 | 急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。 | 救命救急の講習や消防訓練を定期的に行っている。 | | 冷静かつ迅速に動けるように、緊急時の対応方法のマニュアル化 |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|--|--|-------------------|---------------------------------|
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 消火器の使用法や避難経路の確保等の設備点検や避難訓練を定期的に行うとともに、運営推進会議で地域の協力を呼びかけている。 | | |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。 | 毎月送付している入居者さんのご様子を書いた手紙などで現状の報告や、家族会等でリスクの説明、話し合いを行っている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | 毎朝、毎夕の申し送りで、体調の変化や異変情報を共有して、対応方法など話し合っている。 | | |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 薬が変わった場合は伝達ノートや申し送りで把握するようにしている。入居者さん個々に薬ファイルを作成し、職員がいつでも確認できるようにしている。 | | |
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。 | 排便チェック表をつけ状況把握をして、必要に応じて牛乳や食事など工夫して取り組んでいる | | |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。 | 歯科医の往診が週に一回程度有り指導していただいている。一人ひとり必要な事のみ介助して行っている。 | | 毎食後の口腔ケアの実施、徹底 |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|---|-------------------|---------------------------------|
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。 | 毎日の食事量や水分摂取量を記録して，一人ひとりの特性を把握している。そして，状態の変化にもすぐ気づけるようにしている。 | | |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等) | インフルエンザの予防接種を入居者さん，職員全員受けている。アルコール消毒やゴム手袋の着用などで感染防止している。 | | |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | 台所用品は塩素系にて消毒，洗浄している。また，食器や調理器具は乾燥機を使用している。体調不良の入居者さん，スタッフは調理に携わらない。食材のチェックもかかさず行っている。 | | |
| 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 玄関まわりは，花や植物で緑にあふれている。居室やリビングのカーテンを開け，開放感が出るよう心がけている | | |
| 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 共用部分は清潔に保ち，季節の行事にあった飾り付けをしている。また，その行事の時の写真を定期的に張り替え飾っている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|--|-----------------------|---------------------------------|
| 82 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | ソファや食卓テーブルなど、思い思いの過ごし方ができるようにしている。話をしたり、軽作業をしたりして過ごしている。 | | |
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 入居者さんの使い慣れた家具やテレビ、日用品などを持ち込み、自分らしく自由にくつろいで過ごせる居室になっている。 | | |
| 84 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 定期的な換気や温度調節を行い、入居者さんに合わせた過ごしやすい環境を整えている。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | ポータブルトイレや手すりなどを有効に使い、出来る限りご本人の力が発揮できるよう安全な環境づくりをしている | | |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | 各居室には手作りの表札をつけ、顔写真を貼り、わかりやすくしている。 | | |
| 87 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 庭では花や野菜と一緒に植えたり水遣りをしている。ベンチやテーブルも置き、気軽に外で過ごせるようにしている。 | | |

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム己斐・みどりの家

評価年月日 2009年 6月 10日

記入年月日 2009年 6月 15日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 計画作成担当者 山地裕佳 介護従業者 坂井美千代

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|----|---------------------------------|-----------------------|---------------------------------|
|----|----|---------------------------------|-----------------------|---------------------------------|

模索して 理念の基づく運営

1 理念の共有

| | | | | |
|---|--|--|--|--|
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。 | 「ゆっくり・いっしょに・楽しく」の理念に基づき、一緒に料理をしたり、洗濯や掃除、買物を楽しんだりと生活感あふれる支援をしている。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 | 各ユニットに理念を掲示し、職員全員が理念にそって関われる様心がけている。 | | |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。 | 毎月通信を配布したり、地域の祭りや行事に参加し、より多くの方と関わりを持つよう取り組んでいる。 | | |

2 地域との支えあい

| | | | | |
|---|---|--|--|--|
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。 | 日頃の挨拶だけでなく、近所の方と立ち話が気軽に出来る付き合いは出来ている、年に一度のホーム主催で行なう祭りでは、駐車スペースをご協力いただいたり、沢山の方々にお越しいただいている。 | | |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 | 町内の祭りや小学校の祭り、とんど等、地域の行事にはほとんど参加している。 又、地域の方から祭りに招待して頂くこともある。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------|---|--|-----------------------|--|
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。 | 運営推進会議等で、地域の高齢者の方が気軽に立ち寄れる家でありたい事等、伝えている。 | | みどりの家をもっと地域の方へ情報発信するにはどうしたらいいか、模索していきたい、地域の職員が多くいる為まずはそこから発信しています。 |
| 3 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。 | 評価後は、改善点の見直しが出来てよりサービスの向上に役立っている。 | | |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | ホーム現状報告や行事・取り組み等報告し、アドバイスや意見を頂き、運営に生かしている。 | | |
| 9 | 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。 | 介護保険更新の手続きや各担当の方にも不明な点は質問し、その際ホームの現状も報告している。 | | 積極的に相談など関係作りを出来る様に心がけたい。 |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。 | 研修等でしているが、出来ていない事もある。 | | 社会資源について、もっと勉強していきたいと思います。 |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 身体拘束等話し合い、虐待への意識を高め、防止に努めている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 4 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 担当者より、資料を基に十分な説明をしており、ご家族様には、ご理解、ご納得いただいている。 | | |
| 13 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。 | 話しやすい関係を作り又、全体ミーティング等で改善点の話し合いをしている。 | | |
| 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。 | 毎月、通信と一緒に、ご様子を手紙にして報告している。また、往診以外で病院を受診した場合は、その都度ご家族様に連絡し報告している。 | | |
| 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 意見箱を設置する他、来所時には話をして話しやすい関係をつくっている。 | | |
| 16 | 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | ミーティングや個別に相談したりし、意見や提案を聞いている。 | | |
| 17 | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 | 地域に住んでいる職員が多く、その為、緊急時の対応がとりやすく、いつでも対応出来るよう、確保している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| 18 | <p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> | <p>異動後も交流があり、気軽に入居者様に面会に来たり、関係が切れない様、連絡を取りあい配慮している。</p> | | |
| <p>5 人材の育成と支援</p> | | | | |
| 19 | <p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> | <p>本人が希望する研修や、社内でも様々な研修を受けている。</p> | | |
| 20 | <p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> | <p>他ホーム同士の交流会に参加している。</p> | | |
| 21 | <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> | <p>個別面談はもちろんの事、職務時間外でも気軽に相談にのっている。</p> | | |
| 22 | <p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p> | <p>度々の訪問以外にも、半年毎に面談・考課を行っている。</p> | | |
| <p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> | | | | |
| <p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p> | | | | |
| 23 | <p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p> | <p>時間をかけ、ゆっくり話を聞くことで信頼関係を築く努力をしている。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------|--|--|-------------------|---------------------------------|
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。 | 相談事を含め話しやすい様、コミュニケーションをとり、傾聴出来る様心がけている。 | | |
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 他のサービスや施設等、アドバイスをを行っている。 | | |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。 | 体験入居が出来る様な体制をとっている。 | | |
| 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 共に生活していると意識し、関わりの中で入居者から学ぶ事は多く、支えあう関係も築けている。 | | |
| 28 | 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。 | 一緒に支援していける様、協力をお願いしている。 | | |
| 29 | 本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。 | 行事や外出への参加をして頂き、一緒に時間を共有し、より良い関係が築けるよう支援している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------|--|--|-----------------------|---------------------------------|
| 30 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 電話や手紙以外でも、外出したりして支援している。 | | |
| 31 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。 | なるべく皆で話をしたり、料理をしたり職員が間に入り良い関係がもてる様に支援している。 | | |
| 32 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。 | 気軽に電話や来所して頂きたいと願っているが、現在継続的な関わりはない。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | ご本人の意向や希望を考慮し、ケアプランを立てている。 | | |
| 34 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | ご本人・ご家族・ケアマネージャーから情報を収集し把握している。 | | |
| 35 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。 | 生活状況や往診結果、食事摂取量等毎日申し送りし、重要事項や特記事項は伝達ノートを活用し職員全員が情報を共有している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | 介護計画を作る際職員が携わり、家族にきちんと内容を説明し、意見を聞き作成した。 | | |
| 37 | 状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。 | 毎日、ケアプランを振り返る事で状態に応じ対応している。 | | |
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 勤務交代ごとに申し送りをし、情報を共有している。又、伝達ノートも活用している。 | | |
| 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。 | 出来る範囲であれば、支援する様努力している。 | | |
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。 | 避難訓練、救命講習、近隣の中学校からの職場体験、地域のボランティアさんにご協力頂いている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|--|--|-----------------------|---|
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。 | 他のサービスを利用することはあまりない。 | | ご本人意思を尊重し、受けたいサービスがあれば利用の支援を行いたい。 |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。 | 運営推進会議で意見交換や助言、情報を頂いている。 | | 地域包括の方からもっと意見や情報を頂けるよう密な関係作りが出来たらと思います。 |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。 | 24時間いつでも連絡のつく、かかりつけ医があり、気軽に相談できる関係が出来ている。又、家族にも安心感をもってもらっている。 | | |
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。 | かかりつけ医より、状態によって適切なアドバイスや医療機関を紹介してもらっている。 | | |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。 | 地域のかかりつけ医院のバックアップが常にあり、看護師さんがいつでも相談にのって下さったり緊急時など、駆けつけて下さっている。 | | |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。 | 入院時は、出来るだけ病院を訪問し、経過報告等確認し、退院前には担当医とカンファレンスし、退院後のプランを立てている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|---|--|-----------------------|---|
| 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p> | <p>ご家族・かかりつけ医と話し合いをして今後の方針を考えている。</p> | | <p>個々のご家族と、ターミナルケアについてしっかり話し合っていきたい。</p> |
| 48 | <p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> | <p>かかりつけ医や看護師さんとの連携を大事に常日頃からの関係作りや家族の思いなどを共有し、その人の望む週末期を迎えられる体制作りをして行きたいと思います。</p> | | <p>入居者様・ご家族がいつ望まれるか分からないし又、こちらからも提案出来る様にしていきたい。変化に合わせて、柔軟な対応が出来る様にしていきたい。</p> |
| 49 | <p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p> | <p>ご家族と話し合い情報交換をしている。</p> | | |
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> | | | | |
| <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p> | | | | |
| 50 | <p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p> | <p>言葉かけには充分注意して、人生の先輩として接している。又、勉強会や研修等で職員の意識向上に取り組んでいる。</p> | | |
| 51 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> | <p>常にご本人の思いを尊重して、納得した生活を送って頂ける様に支援している。</p> | | |
| 52 | <p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> | <p>ゆっくり・いっしょに・楽しく、せかす事なく一人一人のペースを大事に支援している。</p> | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|---|-------------------|---------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の紫煙 | | | | |
| 53 | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。 | 毎日の着替えや整容・外出時はお洒落するよう手伝っている。職員による散髪も行っている。 | | |
| 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 一人一人の力量に合わせ、食事の準備や料理の手伝い等、無理なく出来る手伝いをして頂いている。 | | |
| 55 | 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。 | ご本人の状況に合わせて、楽しめるように支援している。 | | |
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。 | 一人一人の排泄パターンを把握して、気持ちよく排泄出来る様支援している。 温タオルを使用したり、排泄表を活用している。 | | |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。 | 希望や体調等にに合わせて、入浴を楽しめる様に支援している。 | | |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。 | その時々に応じて声掛けをしたり、自室やソファで休息して頂いている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|--|-------------------|---------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。 | ボランティアさんによるゲーム・絵手紙・折り紙等定期的に来られている。 外出も多く、気分転換をしている。 | | |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | お金の管理はホームでしているが、いつでも使えるようにしている。 | | |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。 | 散歩・買物・外食等で戸外に出掛けている。 | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。 | 小規模外出で遠出をしたり、外食・花見へ行く等気軽に出掛けられる支援をしている。 | | |
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 自由に電話もかけられ、手紙も書けるように援助している。 | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | ご家族やボランティアさんが、気軽に訪問できる雰囲気作りをしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|---|--|-----------------------|--|
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束はしていないが、ミーティングで勉強会を開き、職員全員が正しい知識を知る様努めている。 | | |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | | | 常にオープンでありたいが、目が行き届かない時もあり施錠しているが、いつでも外に出れる様配慮している。 今後もっとオープンに出来る様、取り組みたい。 |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。 | 常に目を配って確認している。 | | |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。 | 全ての物を排除するのではなく、能力に見合った物を適切に常備している。 | | |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。 | 研修や火災訓練に参加して知識を学んでいる。事故を起こさない様、職員は常に緊張感を持って業務する様努めている。 | | 事故防止に取り組んでいるが、事故発生時に慌てない様な訓練をしていきたい。 |
| 70 | 急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。 | 救命救急の講習、消防訓練を定期的に行っている。職員全員が対応出来る様、研修や勉強会に参加している。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|--|---|-------------------|--|
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 | 職員での避難訓練を行ったり、運営推進会議で相談・働きかけを行っている。 | | 地域の避難場所や、利用者が避難できる方法を職員全員が把握出来る工夫をしたい。 |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。 | ご家族に分かりやすく今の現状を伝え、今後についての対応策を一緒に考えたり、提案している。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。 | バイタルチェックや日々の変化を生活日誌に記入している。 病院往診・受診ファイルや申し送りノートを見て情報を共有している。 | | |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 個人の薬ファイルや伝達ノートで情報伝達をしており、職員全員が把握出来る様に勤めている。 | | |
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。 | 看護師による排便・浣腸も状況をみて行っているが、まずは牛乳やさつま芋等でコントロールしている。 | | |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。 | 歯科往診をお願いしている。 個々の状態に合わせて、食後の歯磨きや義歯の消毒を行っている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|--|-------------------|---------------------------------|
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。 | 栄養バランスを考えて、ご本人の食べられる量を食べて頂いている。 水分補給は脱水症状を起こさない様、夏場は特にこまめに行っている。 | | |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等) | インフルエンザの予防接種は、入居者様や職員は全員受けている。 | | |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。 | 台所用品の漂白・除菌を行っている。 手洗い・うがい・アルコール消毒をしている。 食材には充分火を通してているが、不安な時は再加熱をしている。 | | |
| 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。 | 庭には野菜を植えたり、玄関近くに花を置く事で緑豊かにし、安らげるホームになる様工夫している。 | | |
| 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | リビングの壁面には、入居者様と一緒に作った季節を感じられる物を貼っている。 常に清潔感を心がけ、居心地よく過ごせる空間作りをしている。 | | |

| 番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取組んでいき たい項目) | 取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|--|---|-----------------------|---------------------------------|
| 82 | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | ソファ・でくつろいだり、音楽鑑賞等して一人一人自由に過ごされている。 | | |
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 馴染みの家具やお気に入りの物を置いて、居心地良く安心して暮らせる様、ご家族に説明している。 | | |
| 84 | 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 | 定期的な換気をして、常に全体をみながら温度調節している。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | ポータブルトイレ・手すりの設置 玄関に、靴を履く時座れる椅子を用意している。 浴槽内には滑り止めマット使用している。 | | |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。 | 居室のドアに顔写真を貼る事で、分かりやすくしている。 | | |
| 87 | 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 | 天気の良い日は、近くの公園に遊びに行ったり、庭のテラスでお茶を飲んだり、庭に植えてある野菜を収穫する等、活動できるように活かしている。 | | |